

別冊 つなぐ

子供を守るための防犯教育プログラム



京都府警察本部 少年課

つなぐ

子供を守るための防犯教育プログラム

不審者対応を中心とした

安心・安全アドバイスノート



京都府警察本部 生活安全部少年課

不審者対応を中心とした

安心・安全アドバイスノート

目次

01 学校安全の定義について p05

02 学校等での危機管理の基本的な考え方 p06-20

- (1) 一次予防 p07
不審者の侵入を防ぐための危機管理対応（発生の予防）安全点検・子供への防犯教育
- (2) 二次予防 p09
万が一不審者が侵入した直後の安全確保、救急・救命、被害防止・軽減の対策（進行の予防・早期介入）
- (3) 三次予防 p18
不審者侵入事案後の子供や保護者等の対応、再発防止対策

03 不審者対応訓練について p21-24

- (1) 目標 p21
- (2) 実施要領・事前打合せ p21
- (3) 実施内容 p22
- (4) 想定事例 p22
- (5) 事後の振り返り p23
- (6) 関係機関などとの連携・情報共有 p24
- (7) その他 p24

PART 02 / 学校等での危機管理の 基本的な考え方



基本的知識

学校や幼稚園での不審者侵入に対する危機管理には、

(1) 一次予防

不審者の侵入を防ぐための事前の危機管理対応（発生の予防）

安全点検・子供への安全教育

(2) 二次予防

万が一不審者が侵入した直後の安全確保、救急・救命、被害拡大防止・

軽減の対策（進行の予防・早期介入）

(3) 三次予防

不審者侵入事案後の子供や保護者等への対応、事態の収拾（再発の予防）

の3つの対策に分類されます。

アドバイス内容

学校等で指導する際、先生方に一番理解していただきたいことは、

- ・ 児童と教職員の安全を確認する体制の整備（学校施設の点検、避難訓練等）
- ・ 事案発生時の児童と教職員の安全確保（命を守ること）

であり、警察職員はこれに即した助言・指導等を行います。

練習方法や有効な道具

○身近な道具を使った練習方法

実際に竹ぼうきやモップ、傘などを手に持って、相手との距離の取り方を練習してみてください。相手に道具を掴まれないように距離を取ります。

実際に道具を持って動かすと自分が使いやすい道具がわかります。

竹ぼうきは、先が広がっていて相手を威圧するのに良さそうと思われるかもしれませんが、手に持ってみると、先が重くて動かしにくい、自分は普通のほうきの方が使いやすい、などを感じるかもしれません。

○用具の特徴を活かした使い方

長いものは長く、広いものは広く使います。

○油断の排除

複数で対処する場合も安易な気持ちで不審者に近寄らないようにします。

複数であればあるほど、油断しやすく、連携も取りにくくなるため、思わぬ不覚を取り、怪我をしてしまうこともあります。

○間合いは可能な限り遠いことが望ましい
不審者が近づいてきたら、必ず視線を不審者に向けたまま、後退するなどして間合いを取り安全を確保することを助言します。



ほうきを活用し間合いを取る



教室清掃用ほうきを活用し間合いを取る

PART 03 / 不審者対応訓練について

学校から不審者対応訓練の参加依頼があったときは、前頁の「01 学校安全の定義について」、
「02 学校等での危機管理の基本的な考え方」を参考に積極的に助言するなど連携した対応をお
願いします。

(1) 目標

- 学校安全管理に対する意識の高揚
- 連絡体制、応急処置方法などの対応力の向上
- 冷静に対応できる心構えと精神面の向上
- 教職員間の連携や意思疎通の強化

(2) 実施要領・事前打合せ

学校等から不審者対応訓練や防災訓練の参加依頼を受ければ、事前打合せをした上、学校の
要望等を十分検討して準備します。打合せでは、学校のマニュアルに基づいた教職員の役割分
担と目標を確認します。

●事前打合せの内容

- 学校の危機管理マニュアルの内容の確認
- 先生方の役割分担と訓練の目標
- 緊急時の児童の避難場所、避難経路の確認
- 不審者対応で使用する道具とその個数
もし刺股が無い場合は、竹ぼうきやモップ、長定規など教室にある身近な道具を活用
- 先生方の防犯面の不安要素